

テーマ設定の背景と趣旨

教師教育政策等の動きと日本教師教育学会での対応の経緯

- 2015.12.21 中教審答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」
 - 教職課程における科目の大きくくり化、「教科に関する科目」「教職に関する科目」区分の撤廃、教員育成指標の作成など（2016年に関係法令改正）
- ◆ 2016.6.18 「これからの教師教育の在り方を探る特別委員会」設置
 - ◆ 2016.12.4 公開シンポジウム「中教審答申で教師教育はどう変わるか？」
 - ◆ 2017.4.20 緊急出版『どうなる日本の教員養成』（学文社）
 - ◆ 2017.7.9 公開シンポジウム「どうなる日本の教員養成：教職課程コア・カリキュラムをめぐって」
- 2017.11.17 「教職課程コアカリキュラム」公表

- ◆ 2017～2018 教職課程の再課程認定の申請過程で文科省と各大学間の事前相談での行政指導に対する疑問が提起。
- ◆ 2018.9.14 特別課題研究「大学教育と教職課程」部会設置
- ◆ 2018.11.25 公開シンポジウム「今、再課程認定を再考する」
- ◆ 2019.6.15 公開シンポジウム「教師教育改革を問い直す」
 - ◆ ①「教科コアカリキュラム」
 - ◆ ②「教職課程の質保証」
- 2020.8.19 日本学術会議「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 教育学分野」公表
- 2020.10.1 日本学術会議会員候補者6名任命拒否
- ◆ 2020.10 課題研究Ⅱ「大学教育と教師教育」部会設置

- 2021.3.12 中教審に「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」諮問
 - 教師に求められる資質能力の再定義、特別免許状授与件数の増加方策、教員免許更新制の抜本的見直し、教員養成大学・学部、教職大学院の機能強化、教師を支える環境整備
- ◆ 2021.4.1 科研費基盤研究B「『大学における教員養成』の再構築に関する理論的・実証的研究」採択（2024.3まで3年間）
- ◆ 2021.7.18 緊急公開シンポジウム「『令和の日本型学校教育』を担う教師と教師教育の在り方を問う」
- ◆ 2022.3.13 公開シンポジウム「令和の日本型学校教育」と教師」

- 2022.7.1 教員免許更新制廃止
- 2022.12.19 中教審答申「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」
- ◆ 2023.1.8 公開シンポジウム「大学における教員養成の未来－『グランドデザイン』の提案－」
- ◆ 2023.5～6 「今後の教師教育の『グランドデザイン』」についてウェブ調査を実施
- ◆ 2023.9.30 『「令和の日本型」教育と教師』（学文社）刊行
- ◆ 2024.1.24 「今後の教師教育の『グランドデザイン』」確定版
- ◆ 2024.3 『大学における教員養成の未来－「グランドデザイン」の提案－』（学文社）刊行予定

- 日本教師教育学会では、2015年中教審答申以降の政策動向について危惧を抱きつつ学会としての議論を進めてきた。
- 2021年度から2023年度までの3年間、課題研究Ⅱ「大学教育と教師教育」部会において科研費基盤研究（B）の交付を受けて、「『大学における教員養成』の再構築に関する理論的・実証的研究」という主題で研究に取り組み、これからの教員養成の制度とカリキュラムの在り方を「グランドデザイン」として描く作業を進めてきた。
- その過程では、25名の有識者から率直な意見・助言等を聴取したほか、初等・中等学校の現職教員523名、大学の教職課程担当者395名、教育行政関係者90名、教職課程を履修している学生・大学院生へのウェブ調査を実施した。そうして、本年1月に「今後の教師教育の『グランドデザイン』」の確定版を完成させた。
- 教育関連学会連絡協議会加盟団体の所属研究者の多くは、教員養成に携わると同時にその基盤を成す学術研究に携わっている。教員養成未来はどうあるべきか。大学における教員養成の未来をどう描くべきか。専門領域の違いを越えて、多様な視点から議論することが重要だと考える。